

2010年12月6日

**[1]The 1<sup>st</sup> IFTOMM Asian Conference on Mechanism and Machine Science開催報告**

2010年10月21日～25日に、台湾台北市Howard International Houseにおいて、国際会議The 1st IFTOMM Asian Conference on Mechanism and Machine Scienceが開催された。国立台湾大学機械工学科長であるShuo Hung Chang教授を実行委員長とし、IFTOMM Taiwan Chapterが主催したアジア地区のIFTOMMのコンGRESである。

キーノートスピーチ6件と112件の講演があり、3講演室での会議であった。アジア地区を中心として世界各国からの出席があり、IFTOMM本部からもMarco Ceccarelli会長、中村仁彦副会長、Carlos Lopes-Cajun幹事長ら主要なECメンバーが参加し、盛大な国際会議となった。日本からも約20名の参加者があった。

大会中に本会のInternational Steering Committee会合が開催され、本国際会議を2年周期で定期的に行うこととし、次期2012年の開催国を選出する運びとなり、インドと日本が立候補し討議の結果、日本開催が決定された。バンケット会場において、下記の予定情報に基づいて、岩附が参加者への案内を行った。今後、本会メンバーを主体とした実行委員会を構成し、開催準備に入るので、各位のご協力をお願いする。

以下に、会議の様子を写真で示す。

文責 岩 附

**The 2nd IFTOMM Asian Conference on Mechanism and Machine Science開催案**

主催： 日本IFTOMM会議

期間： 2012年11月7日(水)～10日(土)

会場： 東京工業大学大岡山キャンパス



左上： 開会式  
右上： 実行委員長挨拶  
左下： バンケットにおける  
第2回国際会議の説明

## [2]第16回日本IFToMM会議シンポジウムの報告

2010年11月6日(土), 東京工業大学石川台3号館工学系会議室において, 総会に先立ち, 下記の要領で2010年度第16回のシンポジウムが開催された. 4セッション10件の講演発表に加え, 本会実行委員会斎藤之男副委員長による特別講演「福祉機器の技術革新と近未来の義肢・装具技術」が行われ, 約70名の参加者により活発な討論が行われた. シンポジウムの様子を写真で示す.

### 第16回 日本IFToMM会議シンポジウム プログラム

日 時: 2010年11月6日(土)10:40~19:20

会 場: 東京工業大学石川台3号館3階工学系会議室(304号室)

発表テーマ:

セッション1: 「変・減速機と振動」

座長 岩附信行(東工大)

1. 周波数調整時の組立誤差を排除した遠心振子式動吸振器の歯車装置への適用  
○松村茂樹(東工大), 北條春夫
2. 高次スペクトル解析を用いた非線形振動系のマッピング  
○松本宏行(ものづくり大), 大石久己(工学院大), 山川新二
3. 搬送装置用可変速装置に関する研究  
○小森雅晴(京都大), 姜 晶哲, 竹岡 郁, 木村幸彦

特別講演 「福祉機器の技術革新と近未来の義肢・装具技術」

日本IFToMM会議実行委員会副委員長 斎藤之男先生

司会 北條春夫(東工大)

セッション2: 「ロボット機構」

座長 中村仁彦(東京大)

4. 誤差の検出・補償機能を有する2自由度回転パラレルメカニズムの総合  
○岡村 潤(東工大院), 花ヶ崎秀太, 武田行生(東工大)
5. 歯科患者ロボット - 全身動作と脚部の再現 -  
○大久保則男(工学院大), 高信英明, 鈴木健司, 三浦宏文, 石黒貴士, 榎宏太郎(昭和大), 宮崎芳和, 間所睦, 丹澤豪, 宮本賢一(株)テムザック), 高辻浩一, 石井佑典, 沖野晃久(オキノ工業(株)), 高西淳夫(早稲田大)

セッション3: 「人間の運動と制御」

座長 伊能教夫(東工大)

6. 人間行動の統計モデリングを通じた大規模運動データベースの構造設計  
○高野 渉(東京大), 今川洋尚, 中村仁彦
7. 交差流の時間・空間周波数を利用した歩行者制御  
○山本 江(東工大), 岡田昌史
8. 静油圧駆動ウェアラブルデバイスの発揮力測定を用いないアシスト制御  
○神永 拓(東大), 田中宏和, 中村仁彦

セッション4: 「ロボット制御」

座長 八島真人(防衛大)

9. ロボットの運動生成のための力学的アナロジー  
○宮寄哲郎(東工大院), 岡田昌史(東工大)
10. 群知能ロボットの研究 - 飛行船ロボットと地上移動ロボットによる群行動 -  
○飯田真澄(工学院大), 高信英明, 鈴木健司, 三浦宏文, 二上将直, 遠藤智博, 稲田喜信(東海大)



中村委員長開会挨拶



講演



講演会場



質疑応答



斉藤之男先生特別講演



特別講演会場風景



北條副委員長閉会挨拶



また、2005年度から創設された「Young Investigator Fund」に基づくBest Paper Awardについて、本会フェローで構成される審査委員会による講演論文の事前審査に基づき、下記3名のFinalistが選出され、

- (1) 東京工業大学大学院 岡村 潤君  
論文: 誤差の検出・補償機能を有する2自由度回転パラレルメカニズムの総合
- (2) 工学院大学 飯田真澄君  
論文: 群知能ロボットの研究 — 飛行船ロボットと地上移動ロボットによる群行動 —
- (3) 東京工業大学 山本 江君  
論文: 交差流の時間・空間周波数を利用した歩行者制御

さらに、講演発表の審査に基づき、東京工業大学大学院 山本 江君にBest Paper Awardを贈賞した。

その表彰式はシンポジウム終了後の総会席上で審査委員長北條実行副委員長の司会により開催され、Best Paper Award受賞者には賞状、賞牌、賞品ならびにFinalistには賞状および賞品が中村実行委員長より贈呈された。その表彰式の写真を示す。 (文責 岩附)



Finalist



Best Paper Awardの賞状・賞牌の贈呈

### [3]2010年度日本IFTtoMM会議総会の報告

2010年11月6日(土), 東京工業大学石川台3号館工学系会議室において2010年度総会が開催され, 2009年度の事業報告, 収支決算報告および監査報告, 2010年度の事業計画および収支予算の審議ならびに承認が行われた。主な議事, 決定内容の詳細は下記の通りである。

#### I. 2009年度事業報告

##### 1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2009年9月30日, メキシコにて開催)に出席, 2007-2009 Activity Report 提出(付録1にReport), IFTtoMM創立40周年祝賀行事に祝賀メッセージ配信(付録2に林輝名誉員による祝賀メッセージ)
- (2) 2011-2014年執行委員会委員推薦(EC member nomination, 2009年9月25日)を行う
- (3) 国際会議 IFTtoMM International Symposium on Robotics and Mechatronics (ISRM 2009) (2009年9月21日~23日, ヴェトナム, ハノイにて開催)へ協賛
- (4) 国際会議 13th International Conference on Mechatronics Technology (ICMT2009) (2009年10月20日~23日, フィリピン, セブにて開催)へ協賛
- (5) 国際会議 18th CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control (Romansy2010) (2010年7月5日~8日, イタリア, ウドネにて開催)へ協賛
- (6) 国際会議 AzC IFTtoMM 2010 International Symposium on Mechanism and Machine Science (ISMMS2010) (2010年10月5日~8日, Izmir Institute of Technology, Izmir, Turkeyにて開催)へ協賛
- (7) 国際会議 1st IFTtoMM Asian Conference on Mechanism and Machine Science (Aisan-MMS2010) (2010年10月21日~25日, 台北市, 台湾にて開催)へ協賛

##### 2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催(2009年7月11日, 2010年9月10日, 10月26日)
- (2) 2008年度総会を開催(2009年7月8日, 東京工業大学)
- (3) 第15回日本IFTtoMM会議シンポジウムを開催(2009年7月8日, 東京工業大学)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰  
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞授与, 2009年度第15回シンポジウムにて)
- (5) 特別講演会を開催  
講師: Prof. I-Ming Chen (Nanyang Technological University, Singapore)  
講演: Personalized Mechatronics Systems: From Motion Capture (MOCAP) to Motion Replication (MOREP)  
日時: 2009年7月22日16:00-17:00  
会場: 東京大学工学部2号館会議室
- (6) 日本IFTtoMMニュースNo.37を発行(2010年11月4日)
- (7) 日本IFTtoMM会議のホームページを更新

##### 3. 会員の状況 (2010年4月1日現在)

個人会員: 100名

賛助会員: 4団体 ( (株)小笠原プレジジョンラボラトリー, (財)機械振興協会, (株)東芝, 日機装(株) )

## II. 2009年度収支決算報告(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

### 1. 一般会計

#### 収入の部

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	備 考
会費収入(個人)	600,000	445,000	2009 5,000×72 2008 5,000×12 2007 5,000×3 2006 5,000×2
会費収入(賛助)	200,000	200,000	2009 50,000×4社
シンポジウム予稿集売り上げ	10,000	0	単価 1,000
技術交流会会費	100,000	90,000	5,000×18名
見学会懇親会会費	60,000	0	開催せず
Young Investigator Fund			Young Investigator Fund より
表彰経費	40,000	40,000	繰入
利息		583	
小 計	1,010,000	775,583	
前期からの繰越金	88,608	88,608	
合 計	1,098,608	864,191	

#### 支出の部

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	備 考
[国際活動費]	<u>270,000</u>	<u>232,608</u>	2009 年度会費
IFTtoMM 年会費	260,000	223,608	US\$ 2,400.00 × 93.17
送金手数料	10,000	9,000	
[国内活動費]	<u>403,500</u>	<u>287,425</u>	
会議費	12,000	8,000	実行委員会費用
シンポジウム・総会費	220,000	159,020	
見学会懇親会	10,000	0	開催せず
通信費	34,000	17,400	切手, 宅急便等
コピー代	15,000	4,000	
事務委託費	80,000	80,000	年間
郵便振替費	7,000	5,850	
ホームページ維持費	12,000	12,000	年間
フェロー記念品	3,500	0	
予備費(雑費)	10,000	1,155	文具等
[MMT誌費]	<u>68,000</u>	<u>68,000</u>	17,000 × 4 (2009Vol.44)
賛助会員購読料	68,000	68,000	(MMT 誌会計へ繰入れ)
[Young Investigator Fund 表彰]	<u>40,000</u>	<u>39,300</u>	
賞品	30,000	35,000	
賞状および賞牌	4,000	3,500	
通信費	6,000	800	
国際会議準備金積立	<u>100,000</u>	<u>100,000</u>	

国際交流活動等準備金積立	100,000	100,000	
小計	981,500	827,333	
次期への繰越金	117,108	36,858	
合計	1,098,608	864,191	

## 2. MMT誌会計

### 収入の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
MMT誌購読料収入			
個人	340,000	289,000	17,000 × 13 (2009Vol.44) 17,000 × 3 (2008Vol.43) 17,000 × 1 (2007Vol.42)
賛助	68,000	68,000	17,000 × 4 (2009Vol.44) (一般会計から繰入れ)
小計	408,000	357,000	
前期からの繰越金	0	0	
合計	408,000	357,000	

### 支出の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
出版社への支払	374,000	313,462	VOL. 44 (2009) EUR 105.00 × 22 × 129.53
送金手数料	10,000	9,262	(一冊単価: ¥ 14,248)
小計	384,000	322,724	
次期への繰越金	24,000	34,276	
合計	408,000	357,000	

## 3. 基金等

### (1) Young Investigator Fund

#### 収入の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
前期からの繰越金	884,475	884,475	
合計	884,475	884,475	

#### 支出の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
一般会計へ繰り入れ	40,000	40,000	
次期への繰越金	804,475	804,475	
合計	884,475	884,475	

(2) 国際会議準備金

収入の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
前期からの繰越金	1,213,000	1,213,000	
一般会計から積立	100,000	100,000	
合計	1,313,000	1,313,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
次期への繰越金	1,313,000	1,313,000	
合計	1,313,000	1,313,000	

(3) 国際交流活動準備金

収入の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
前期からの繰越金	926,420	926,420	
一般会計から積立	100,000	100,000	
合計	1,026,420	1,026,420	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
次期への繰越金	1,026,420	1,026,420	
合計	1,026,420	1,026,420	



### Ⅲ. 2009年度監査報告

費目	当期末剰余金	剰余金処理	備考	次期への繰越金(当期末財産)	前期からの繰越金(前期末財産)	財産増減
一般会計	36,858	34,276	MMT 誌会計より	71,134	88,608	-17,474
MMT 誌会計	34,276	-34,276	一般会計へ	0	0	0
基金等						
Young Investigator Fund	804,475	0		804,475	844,475	-40,000
国際会議準備金	1,313,000	0		1,313,000	1,213,000	100,000
国際交流活動等準備金	1,026,420	0		1,026,420	926,420	100,000
合 計	3,215,029	0		3,215,029	3,072,503	142,526

上記のとおり相違ありません。

平成22年4月

日本IFTtoMM会議実行委員会

委員長 中村 仁彦

幹事 岩附 信行

上記の調査を遂げ、その正確であることを承認します。

監事 大輪 武司

監事 吉本 堅一

## IV. 2010年度事業計画案

### 1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2011年11月12日, 13日, チュニジア, スース市にて開催, 2011年6月19日～25日, メキシコ, グアナフアト市にて開催)に出席
- (2) 国際会議 2nd International Conference on Design Engineering and Science (icdes2010) (2010年11月17日～19日, 東京理科大学森戸記念館, 東京都新宿区神楽坂にて開催)へ協賛
- (3) 国際会議 14th International Conference on Mechatronics Technology (ICMT2010) (2010年11月24日～26日, 大阪大学銀杏会館, 大阪市吹田にて開催)へ協賛
- (4) 国際会議 13th IFToMM World Congress (2011年6月19日～25日, メキシコ, グアナフアト市にて開催)への協賛
- (5) 国際会議 2nd IFToMM International Symposium on Robotics and Mechatronics (ISRM 2011) (2011年11月, 中国, 上海にて開催)へ協賛
- (6) 国際会議 2nd IFToMM Asian Conference on MMS (2012年11月, 東京にて開催)を主催
- (7) 国際会議 14th IFToMM World Congress (2015年開催)の主催を検討

### 2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催予定(2010年11月6日, 2011年2月, 4月)
- (2) 2010年度総会を開催(2010年11月6日, 東京工業大学)
- (3) 第16回日本IFToMM会議シンポジウムを開催(2010年11月6日, 東京工業大学)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰  
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞授与, 2010年度第16回シンポジウムにて)
- (5) 日本IFToMMニュースを年1回発行予定
- (6) 日本IFToMM会議のホームページを充実する
- (7) 特別講演会/見学会を企画する  
・2011年3月 特別見学会(見学先未定)
- (8) 会員増強キャンペーンを行う

V. 2010年度収支予算案(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

1. 一般会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
会費収入(個人)	600,000	5,000 × 120 名
会費収入(賛助)	200,000	50,000 × 4 社
シンポジウム予稿集売り上げ	10,000	1,000 × 10 名
技術交流会会費	100,000	5,000 × 20 名
見学会懇親会会費	60,000	4,000 × 15 名
Young Investigator Fund 表彰経費	40,000	Young Investigator Fund より繰入
小計	1,010,000	
前期からの繰越金	71,134	
合計	1,081,134	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
[国際活動費]	240,000	2010 年度会費
IFTtoMM 年会費	230,000	US\$2,400.00
送金手数料	10,000	
[国内活動費]	383,500	
会議費	12,000	実行委員会費用
シンポジウム・総会費	200,000	シンポジウム・総会費用
見学会懇親会	10,000	
通信費	34,000	切手, 宅急便等
コピー代	15,000	
事務委託費	80,000	年間
郵便振替費	7,000	
ホームページ維持費	12,000	年間アルバイト雇用
フェロー記念品	3,500	
予備費(雑費)	10,000	文具等
[MMT誌費]	68,000	17,000 × 5 (2010 Vol.45)
賛助会員購読料	68,000	(MMT 誌会計へ繰入れ)
[Young Investigator Fund 表彰]	40,000	
賞品	30,000	図書券
賞状および賞牌	4,000	レーザー彫刻賞牌
通信費	6,000	論文審査連絡通信費
国際会議準備金積立	150,000	
国際交流活動等準備金積立	100,000	
小計	981,500	
次期への繰越金	99,634	
合計	1,081,134	

## 2. MMT誌会計

### 収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
MMT誌購読料収入 個人	340,000	17,000×20 (2010 Vol.45)
賛助	68,000	17,000×4 (2010 Vol.45) (一般会計から繰入れ)
小計	408,000	
前期からの繰越金	0	
合計	408,000	

### 支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
出版社への支払	384,000	16,000×24 (2010 Vol.45)
送金手数料	10,000	
小計	394,000	
次期への繰越金	14,000	
合計	408,000	

## 3. 基金等

### (1) Young Investigator Fund

#### 収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
前期からの繰越金	804,475	
合計	804,475	

#### 支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
一般会計へ繰り入れ	40,000	表彰経費
次期への繰越金	764,475	
合計	804,475	

### (2) 国際会議準備金

#### 収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
前期からの繰越金	1,313,000	
一般会計から積立	150,000	
合計	1,463,000	

#### 支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
次期への繰越金	1,463,000	
合計	1,463,000	

(3)国際交流活動準備金

収入の部

(単位:円)

項 目	予 算	備 考
前期からの繰越金	1,026,420	
一般会計から積立	100,000	
合 計	1,126,420	

支出の部

(単位:円)

項 目	予 算	備 考
次期への繰越金	1,126,420	
合 計	1,126,420	

## VI. 2010年度日本IFToMM会議実行委員会委員

委員長	中村 仁彦	東京大学
副委員長	北條 春夫 ※ 高西 淳夫	東京工業大学 早稲田大学
幹事	岩附 信行	東京工業大学
委員	※ 新井 健生 ※ 池原 忠明 伊藤 高廣 伊能 教夫 内山 勝 大岩 孝彰 大石 久己 ※ 岡田 昌史 ※ 小俣 透 五嶋 裕之 小西 義昭 小森 雅晴 ※ 近野 敦 ※ 佐々木 健 下田 博一 鈴森 康一 ※ 高野 涉 高信 英明 高増 潔 ※ 武田 行生 竹村 研二郎 ※ 田中 英一郎 寺田 英嗣 中田 毅 南後 淳 樋口 俊郎 福田 敏男 藤原 浩幸 前野 隆司 松日楽 信人 ※ 明 愛国 森脇 一郎 八島 真人 ※ 山中 仁 山中 将 ※ 山本 晃生 横田 眞一 ※ Jorge Solis ※ Venture Gentiene	大阪大学 東京都立産業技術高等専門学校 九州工業大学 東京工業大学 東北大学 静岡大学 工学院大学 東京工業大学 東京工業大学 (財)機械振興協会 日機装(株) 京都大学 東北大学 東京大学 明治大学 岡山大学 東京大学 工学院大学 東京大学 東京工業大学 慶應義塾大学 芝浦工業大学 山梨大学 東京電機大学 山形大学 東京大学 名古屋大学 防衛大学校 慶應義塾大学 (株)東芝 電気通信大学 京都工芸繊維大学 防衛大学校 沼津工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 東京大学 東京工業大学 早稲田大学 東京農工大学
監事	大輪 武司 吉本 堅一	元東芝 埼玉工業大学

※印は新任



## Ⅶ. 日本IFToMM会議フェローの推薦

下記の会員には永年、本会役員として、本会活動に多大な貢献を賜りました。ここに、その業績を顕彰し、日本IFToMM会議フェローに推薦します。

東京電機大学 齊藤之男君

永年にわたり本会実行委員ならびに副委員長として本会の運営にご尽力いただく

付録1:

**SHORT REPORT FORM FOR ACTIVITY OF IFToMM MEMBER**  
**Japanese Council of IFToMM (JAPAN)**  
<http://www.dynamics.mep.titech.ac.jp/iftomm/english/index.html>

REPORT OF ACTIVITY June 2007 – September 2009

**1- DISCUSSION OF RECENT ACTIVITIES**

The Japanese Council of IFToMM (Jc-IFToMM) was established in July, 1978. The Jc-IFToMM has played the leading role in Japan to establish and maintain the international exchange in mechanical engineering field. It has been one of the most important missions of the Jc-IFToMM. In recent years, however, the number of the Jc-IFToMM members has been gradually decreasing due to the existence of various academic societies on mechanical engineering such as the Japan Society of Mechanical Engineers (JSME), the Japan Society for Precision Engineering (JSPE) and the Robotics Society of Japan (RSJ). It is also influential that the economy of Japan is currently sluggish. To overcome the problem, the Jc-IFToMM has taken an initiative to improve the member service. The Annual Jc-IFToMM Symposium and the annual organized technical tour have been planned and executed every year. Notably, the Best Paper Award of Jc-IFToMM Symposium was established in 2005 based on the Young Investigator Fund funded by the family of the late Professor Sumiji Fujii. The Award is intended to encourage young researchers and engineers who work in the domain of Mechanisms and Machine Science. The Jc-IFToMM also actively joined the co-sponsorship of various international conferences, especially to ones associated with the IFToMM. For example, the 17<sup>th</sup> CISM-IFToMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control (ROMANSY2008) was held on 5<sup>th</sup>-9<sup>th</sup> July, 2008 at Waseda University, Tokyo and the International Conference on Motion and Power Transmissions (MPT2009) was held on 12<sup>th</sup>-15<sup>th</sup> May, 2009 in Matsushima, Sendai. The Jc-IFToMM Executive Committee will continue to do their best to develop the researches and educations on mechanism and machine science.

**2- MEETINGS AND VISITS**

The Annual Meeting of the Jc-IFToMM is scheduled on the same day that the Jc-IFToMM Symposium is held in July. In the annual meeting, the international and domestic society activities and the financial report of the previous year are to be reported and approved. The activity plans, the budget and the executive committee members in the following year are to be determined after discussions. The following meetings were held during June 2007 – September 2009:

(1)2007 Annual meeting

Date & place: 12<sup>th</sup> July, 2007, at Conference Room 304, Ohokayama Campus, Tokyo Institute of Technology

Topics: 1) The 12th IFToMM World Congress held on 17<sup>th</sup> – 21<sup>st</sup>, July in Besancon, France, was reported. Our chair, Prof. Yoshihiko NAKAMURA was elected as a vice president of IFToMM in the General Assembly.

2) The Jc-IFToMM supported three international conferences; ROMANSY2006, International Conference on Rotordynamics and ICMT2006

3) Prof. Dr. Eng. Takahiro ITO, Toin University, Prof. Dr. Eng. Masahiro KOMORI, Kyoto University, Prof. Dr. Eng. Masashi YAMANAKA, Tohoku University, Prof. Dr. Eng. Koichi SUZUMORI, Okayama University and Prof. Dr. Eng. Kenichi YOSHIMOTO, Saitama Institute of Technology were elected as new executive committee members.

4) Prof. Dr. Eng. Shinji YAMAKAWA, Kogakuin University was approved for the Jc-IFToMM fellows for his extraordinary service to the Jc-IFToMM as an executive committee member.

5) The Jc-IFToMM decided to support two international conferences, ICMA2008 and ROMANSY2008.

6) 14 members were elected as IFToMM PCs and TCs.

(2)2008 Annual meeting

Date & place: 12<sup>th</sup> July, 2008, at Conference Room 304, Ohokayama Campus, Tokyo Institute of Technology

Topics: 1) ROMANSY2008 was reported.

2) The Jc-IFToMM supported two international conferences; 12<sup>th</sup> IFToMM World Congress, ICMT2007.

3) Prof. Dr. Eng. Shinichi YOKOTA, Tokyo Institute of Technology and Prof. Dr. Eng. Kejiro TAKEMURA, Keio University were elected as new executive committee members.

4) The Jc-IFToMM decided to support two international conferences, ICMT2008.

(3)2009 Annual meeting

Date & place: 11<sup>th</sup> July, 2009, at Conference Room 304, Ohokayama Campus, Tokyo Institute of Technology

Topics: 1) The Jc-IFToMM supported three international conferences; ICMA2008, ICMT2008 and MPT2009

2) Prof. Dr. Eng. Takashi MAENO and Prof. Dr. Eng. Hiroyuki FUJIWARA, National Defense Academy were elected as new executive committee members

3) The Jc-IFToMM decided to support two international conferences, ICMT2008 and The 1st Asian Conference on MMS, Taipei.

Several meetings of the Jc-IFToMM Committee are held every year. The following meetings were held during June 2007-September 2009.

(1)2007 Executive Committee

1)12<sup>th</sup> July, 2007 at Tokyo Institute of Technology    2)28<sup>th</sup> March, 2008 at Tokyo Institute of Technology    3)7<sup>th</sup> July, 2008 at Tokyo Institute of Technology

(2)2008 Executive Committee

1)12<sup>th</sup> July, 2008 at Tokyo Institute of Technology    2)16<sup>th</sup> February, 2009 at Tokyo Institute of Technology    3)3<sup>rd</sup> July, 2009 at Tokyo Institute of Technology

(3)2009 Executive Committee

1)11<sup>th</sup> July, 2009 at Tokyo Institute of Technology

A special technical visit tour is held once per year. The following visit tours were held during June 2007-September 2009:

(1) Special visit tour 2008

Date & place: 10<sup>th</sup> December, 2008, All Nippon Airways Maintenance Center, Haneda, Tokyo

Topics: 1) Explanation on airplane maintenance

2) Factory tour of the maintenance center

### 3-RESEARCH JOINT COLLABORATIONS AND EXCHANGES

Research joint collaborations in the frame of the IFToMM are carried out by participating in the IFToMM PCs and TCs.

The following Jc-IFTToMM members are actively working at the PCs and TCs:

Prof. Emeritus Hiroaki FUNABASHI, Tokyo Institute of Technology (PC Education)

Prof. Hirofumi MIURA, Kogakuin University (PC Education)

Prof. Atsuo TAKANISHI, Waseda University (PC History of MMS, TC Human Machine Science)

Prof. Miko HORIE, Tokyo Institute of Technology (PC Standardization of Terminology, TC Micromachines)

Prof. Haruo HOUJOH, Tokyo Institute of Technology (TC Gearing)

Prof. Emeritus Aizo KUBO, Kyoto University (TC Gearing)

Prof. Hidetsugu TERADA, Yamanishi University (TC Linkage and Cam)

Prof. Norio INOU, Tokyo Institute of Technology (TC Human Machine Science)

Prof. Shinichi YOKOTA, Tokyo Institute of Technology (TC Mechatronics Chair)

Prof. Nobuyuki IWATUSKI, Tokyo Institute of Technology (TC Mechatronics, TC Robotics)

Prof. Makoto SHIMOJO, The university of Electro Communications (TC Mechatronics)

Prof. Yoshiaki TERUMICHI, Sophia University (TC Multi-body Dynamics)

Prof. Shigehiko KANEKO, The University of Tokyo (TC Nonlinear Oscillations)

Prof. Kazuyuki YAGASAKI, Gifu University (TC Nonlinear Oscillations)

Prof. Yoshihiko NAKAMURA, The University of Tokyo (TC Robotics)

Prof. Yukio TAKEDA, Tokyo Institute of Technology (TC Robotics)

Prof. Masato TANAKA, Toyama Prefectural University (TC Rotor Dynamics)

Prof. Yoshihiro SUDA, The University of Tokyo (TC Transportation Machinery)

### 4- CONFERENCE EVENTS

The Jc-IFTToMM symposium has been held in June every year before annual meeting as the Japanese domestic conference on theory of machines and mechanisms. The following symposia were held during June 2007-September 2009.

(1) the 13<sup>th</sup> Jc-IFTToMM symposium

Date & place: 12<sup>th</sup> July, 2007, at Conference Room 304, Ohokayama Campus, Tokyo Institute of Technology

Special lecture(1): 'What is old in What is new in MMS research'

by Prof. Marco CECCARELLI, University of Cassino, Italy, 2008-2011 IFTToMM President

Special lecture(2): 'History of IFTToMM in Japan'

by Dr. Teru HAYASHI, Ogasawara Precision Laboratory, Prof. Emeritus, Tokyo Institute of Technology

Presented papers: 19 papers in 6 sessions (Parallel Mechanisms, Dynamics, Kinematic and Dynamic Analyses of Mechanisms, Actuation and Precision Measurement, Robotics, Medical and Welfare Devices)

Participants: 62 participants

Best Paper Award: Mr. Hiroto OYAMA, National Defense Academy

'A Method to Evaluate the Modal Damping Ratio by Using the Modal Open Loop Transfer Function'

Other finalists: Mr. Toshiya SAKAI, Graduate Student, Tokyo Denki University

Mr. Tatsuhiro Endo, Graduate Student, The University of Tokyo

(2) the 14<sup>th</sup> Jc-IFTToMM symposium

Date & place: 12<sup>th</sup> July, 2008, at Conference Room 304, Ohokayama Campus, Tokyo Institute of Technology

Keynote speech: Prof. Toshiro HIGUCHI, Department of Precision Engineering, The University of Tokyo,

2007 IFTToMM Award of Merit

'Trend of New Actuator Research and Development'

Presented papers: 21 papers in 7 sessions (Control of Robotic Manipulator, Medical and Welfare Devices, Transforming and Evolving Robots, Robot Mechanisms, Micromechanics and Micromechanism, Dynamics, Gearing)

Participants: 52 participants

Best Paper Award: Dr. Kenjiro TADAKUMA, University of Electro Communications

'Development of the Crawler Unit to Realize Sideway Motion with Circular Cross Section'

Other finalists: Mr. Tadashi YOSHIMURA, Graduate Student, Tokyo Denki University

Mr. Mikio OSAKI, Graduate Student, Tokyo Institute of Technology

(3) the 15<sup>th</sup> Jc-IFTToMM symposium

Date & place: 11<sup>th</sup> July, 2009, at Conference Room 304, Ohokayama Campus, Tokyo Institute of Technology

Presented papers: 10 papers in 3 sessions (Robotics, Dynamics and Accuracy, Application of Robots)

Participants: 42 participants

Best Paper Award: Soichiro MATSUDA, Graduate Student, Tokyo Institute of Technology

'Development of 3-URU Pure Rotational Parallel Mechanism with Error Compensation Devices'

Other finalists: Mr. Jun TAKEISHI, Graduate Student, Tokyo Institute of Technology

Mr. Kotaro FUJIMOTO, Graduate Student, Tokyo Denki University

Mr. Yousuke AKABANE, Graduate Student, Kogakuin University

Especially on on 5<sup>th</sup>-9<sup>th</sup> July, 2008, the 17<sup>th</sup> CISM-IFTToMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control (ROMANSY2008) was held at International Conference Center, Waseda University, Tokyo, Japan. Prof. Eng. Atsuo TAKANISHI, Waseda University, a member of the Jc-IFTToMM executive committee organized the conference as the chairman of the organizing committee and Prof. Yoshihiko NAKAMURA, the University of Tokyo, the chairman of Jc-IFTToMM served as the co-chairman of the program committee together with Prof. Dr. Eng. Bodo HEIMANN, University of Hannover, Germany. The members of the Jc-IFTToMM Executive Committee actively supported this important international event and led to the success.

## 5- PUBLICATIONS

The Jc-IFTToMM publishes the Jc-IFTToMM News every year after the annual meeting to report it. The followings issues were published during June 2007-September 2009:

- (1) The Jc-IFTToMM News No.35 (20 pages, 18<sup>th</sup> December, 2007)
- (2) The Jc-IFTToMM News No.36 (16 pages, 8<sup>th</sup> July, 2009)

The Jc-IFTToMM also publishes preprints of the Jc-IFTToMM symposium every year. The followings were published during January 2004 – May 2007:

- (1) Preprints of the 13th Jc-IFTToMM symposium (19 papers, 2 Special lectures, 112 pages, 12<sup>th</sup> July, 2007)
- (2) Preprints of the 14th Jc-IFTToMM symposium (21 papers, 1 Keynote speech, 128 pages, 12<sup>th</sup> July, 2008)
- (3) Preprints of the 15th Jc-IFTToMM symposium (10 papers, 55 pages, 11<sup>th</sup> July, 2009)

## 6- FUTURE PLANNED ACTIVITIES

The Jc-IFTToMM plans the following activities:

- (1) The Annual Meeting and the Jc-IFTToMM symposium  
The annual meeting and symposium will be held in June or July every year. The Jc-IFTToMM Executive Committee will make effort to increase paper presenters and participants.
- (2) Cooperation to the 1<sup>st</sup> Asian Conference on Mechanism and Machine Science  
The 1<sup>st</sup> Asian Conference on Machines and Mechanisms Science will be held on 11<sup>th</sup>-14<sup>th</sup> November, 2010 in Taipei, Taiwan. The Jc-IFTToMM Executive Committee will cooperate with IFTToMM Chinese Taipei chapter.
- (3) Participation to the 13<sup>th</sup> ITFoMM World Congress  
The 13<sup>th</sup> World Congress in Mechanism and Machine Science will be held on the 19<sup>th</sup>-25<sup>th</sup> June, 2011 in Guanajuato, Mexico. The Jc-IFTToMM Executive Committee will encourage members to submit papers and participate in the congress.
- (4) Promotion to hold the future IFTToMM World Congress  
The Jc-IFTToMM Executive Committee decided to promote to hold the future IFTToMM World Congress in Japan.

## 7- OTHER RELEVANT INFORMATION

The list of members of the Jc-IFTToMM Executive Committee is as follows:

**Chairman:** Prof. Yoshihiko NAKAMURA (The University of Tokyo)

**Vice Chairmen:** Prof. Haruo HOUJOH (Tokyo Institute of Technology), Prof. Yukio SAITO (Tokyo Denki University)

**Secretary General:** Prof. Nobuyuki IWATSUKI (Tokyo Institute of Technology)

**Members:** Prof. Toshio FUKUDA (Nagoya University), Dr. Hiroyuki GOTOH (Japan Society for the Promotion of Machine Industry), Prof. Toshiro HIGUCHI (The University of Tokyo), Prof. Norio INOU (Tokyo Institute of Technology), Prof. Takahiro ITO (Kyushu Institute of Technology), Prof. Kohji KIMURA (Tokyo Institute of Technology), Prof. Masaharu KOMORI (Kyoto University), Dr. Yoshiaki KONISHI (NIKKISO), Prof. Takashi MAENO (Keio University), Dr. Nobuto MATSUHIRA (Toshiba Corp.), Prof. Hiroyuki FUJIWARA (National Defense Academy), Prof. Ichiro MORIWAKI (Kyoto Institute of Technology), Prof. Takeshi NAKADA (Tokyo Denki University), Prof. Jun NANGO (Yamagata University), Prof. Hisami OHISHI (Kogakuin University), Prof. Takaaki OIWA (Shizuoka University), Prof. Hirokazu SHIMODA (Meiji University), Prof. Makoto SHIMOJO (The University of Electro Communications), Prof. Koichi SUGIMOTO (Tokyo Institute of Technology), Prof. Koichi SUZUMORI (Okayama University), Prof. Kiyoshi TAKAMASU (The University of Tokyo), Prof. Atsuo TAKANISHI (Waseda University), Prof. Hideaki TAKANOBU (Kogakuin University), Prof. Kenjiro TAKEMURA (Keio University), Prof. Hidetsugu TERADA (Yamanashi University), Prof. Masaru UCHIYAMA (Tohoku University), Prof. Masashi YAMANAKA (Tohoku University), Prof. Masato YASHIMA (National Defense Academy), Prof. Shinichi YOKOTA (Tokyo Institute of Technology)

**Inspectors:** Dr. Takeshi OWA (Institute of National Colleges of Technology, Japan),  
Prof. Kenichi YOSHIMOTO (Saitama Institute of Technology)

The logo mark shown on the right was approved as the official logo mark of Japanese Council of IFTToMM. This was designed by Mr. Takuro Ikeda in 2003. He symbolized a growing fruit through the international cooperation in the community of the IFTToMM.



**Date:** 20<sup>th</sup> September 2009

**Name, address, and e-mail of the Chair:**

Prof. Yoshihiko NAKAMURA, Dr. Eng.

Chairman of Executive Committee, the Japanese Council of IFTToMM

Department of Mechano-Informatics

The University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8685, JAPAN

Tel.: +81-3-5841-6379 Fax.: +81-3-5841-7916 E-mail: nakamura@ynl.t.u-tokyo.ac.jp



付録2:

## Congratulatory Message on the Occasion of the 40<sup>th</sup> Anniversary of IFToMM

Congratulations to the 40<sup>th</sup> anniversary of IFToMM!

Although I was a little sad to see only a few faces of my acquaintances today, I was glad to see so many young faces from all over the world as has been the case with every IFToMM meeting I have attended. It shows how much growth IFToMM has made. It is truly gratifying for me to see that the study domain of this association has expanded so wide as to cover even such remote areas as electronics and biology based on mechanisms.

I came to learn about IFToMM when I was working at Prof. E. Crossley's Lab. in 1974. He had a strong wish for Japan to participate in IFToMM and asked me to work for its materialization. I accepted his offer because I respected his thought. I was fortunate to receive supports from many friends in helping to establish the Japan Council of IFToMM, through which Japan finally joined IFToMM in 1980.

Despite the fact that the world was politically divided by the Iron Curtain then, IFToMM members were able to have intimate contacts across the curtain as evidenced in case of Prof. Crossley in USA and Prof. Artobolevski in USSR. Similar things, I heard, occurred between the IFToMM members of East and West European countries. I received benefits of IFToMM not only in my study life but also in my personal life. I developed friendship with fellow researchers of IFToMM, which soon came to include our family members as well, and we all enjoyed learning about each other's cultures.

I believe that IFToMM has great advantages in the role that was given to it by our great seniors that cannot be found in other engineering organizations. It is expressed in the word "IFToMM Family". There we see the idea that it is more important to cooperate than to compete with each other. I strongly hope that this philosophy will be maintained and developed in the future.

Teru Hayashi  
Honorary Member, IFToMM  
Professor Emeritus, Tokyo  
Institute of Technology

(文責 岩附)